



一 吟 徹 心 靈
一 曲 能 興 国

錦友…第323号

〈令和7年11月25日〉

・編集・
一般社団法人詩吟朗詠錦城会
・発行・
一般社団法人詩吟朗詠錦城会
東京都港区麻布十番2-4-14
電話:東京03-5484-3301(代)
〒106-0045



(一社) 詩吟朗詠錦城会相談役

詩吟朗詠錦城流 宗家

山 元 錦 城

久しく錦友誌より遠ざかって来ましたが、私の近況をということで、一筆申し上げます。

令和7年という年は、6月頃より異常気象で暑い日々が続きました。会員の皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。ご無事であれば幸いです。被害のあった方々にはお見舞い申し上げます。

私は、年と共に足腰の不自由を感じる日々であります。二世宗家としての責務を果たすべく、日々努力しています。地方に出掛ければ、ご心配をお掛けしています。

私には、すでに過去と現在のみとなり、未来のことは、ただ初代宗家の芸道の「すばらしき」を如何にして伝えていくか、錦城会の吟詠、琵琶、朗詠等の日

本固有の古典を後世の人々に伝えていくかという事です。

一般社団法人の組織もその一つですが、私の次に宗家を続ける者は見あたりません。したがって、私としては、初代宗家の残した著作権等を、いかにすべきか、理事でもある顧問今井弁護士にご相談申し上げ、三回目にあります。著作権を一般社団法人に引き継いでもらう方法で考えております。一般社団法人詩吟朗詠錦城会にすべてを集約して、理事の方々に運営をしていただく方法を考えています。いまだ、すべての事についてご相談を済ませていませんので、いましばらく時間をいただき、お知らせしたいと思います。私は過去を振り返ることが多くなりました。

私の生まれは、昭和8年1月4日、今次大戦の前、昭和12年に中国の上海に渡り、中国上海市北四川路永樂坊八十五号に住居し、中国人の女中さん(尼・アマ)に育てられました。と云いますのは、母は琵琶、詩吟の指導と軍部駐屯地への慰問公演でほぼ家を留守にしています。姉と私は毎日、父母不在で寂しい思いを致しました。

父は長江を仕事場とする船会社、中華輪船の南京支店長になり、日本人の中では成功者の一人でした。中華輪船は日本陸軍の軍需物資の輸送を行い、父は軍属でした。終戦の一年後、共にすべてを置いて日本に引き揚げましたが、終戦後父は錦城会とも不縁となり、私が大学卒業の年、昭和33年母と別居し、私

と共に男二人で大塚のアパートに住まいました。

それから母が昭和52年9月25日、死去。父は、私と共に昭和63年5月25日死去いたしました。父の戦後は、寂しいものでした。戦争の犠牲者です。私と母も遠い存在でした。

錦城会『錦友』の筆字も父のもですが、錦友第一巻第一号昭和33年5月1日発行、編集兼発行人山元城月とあり、錦城会主宰城月として論評「音楽としての詩吟」があり、母の詩吟を愛した一人であったことがわかります。

父の論評『音楽としての詩吟』

音楽的であると云う事のは、

①調子はづれでないこと。
②音律節調が芸術的表現であること。

③詩の表現が貴品あること。
④楽器と調和し得ること。

発声、音色、声の強弱、長短、間合、気魄、優美さ、等と研究の部門は広くして深いものがあります。

錦城流として、一貫したものに流儀節調を規定していません。詩吟は日本最高の音楽で芸術あり、他の諸芸能の追従は容易でない。心霊音楽芸術の最高峰であることを断言しつつ終わることにする、とあります。

父も詩吟愛好者の一人でした。令和7年9月『吟道之碑建立六〇年の足跡』が発行されました。各都道府県本部長には送付してあると思いますが、合祀された方々は累計一七一九柱、追加六名で一七二五名の方々が合祀されています。吟を愛し、吟を指導された方々です。錦城会におきまして、多勢の指導者がその足跡をとどめ、すべての合祀者の名前が記録されています。錦城会々員の皆様には、合祀された方々が自分の先生であつた方、また同僚や友人であつた方等、色々あるでしょうが、お手元に一冊供養としてお届けできたかと思つています。また今年の吟道之碑は第62回として令和7年11月30日合祀祭が行われますが、あの長い坂道を登ることなく、大瀬崎の大瀬神社社務所で執り行われます。会員皆様が高齢化していますことの配慮に感謝して、参加者が増しますようお願い申し上げます。ただ思うままに書きましたが、拙い文章で申し訳ありません。



諫早地区師範会 吟行会

諫早地区師範会は、令和7年6月22日、小雨に緑が映える諫早家の菩提寺「天祐寺」において吟行会を行いました。

天祐寺には立派な山門（仁王門）があり、左右には堂々とした赤い仁王様（阿吽像）が迎えて下さいました。山門をくぐると大きな銀杏の木があり、本堂を囲むように回廊が奥へと繋がって歴史の深さを感じます。



まず、本堂の前の境内で、諫早市美術・歴史館の大島大輔専門員に、天祐寺を中心に諫早の

歴史について講義を受けました。境内の奥には、諫早家代々の墓所があります。それと並んで、島原の乱で亡くなった人々の戦没者追悼碑がひっそりと建っています。

豊臣秀吉の時代に、伊佐早地方（後に諫早と改名）を支配していた豪族、西郷氏から龍造寺家晴が攻め取った話や、島原の乱との関係など大変勉強になりました。

詩仙堂丈山寺を訪ね「富士山」の大会吟

令和7年度の滋賀県湖北地区の吟行会は、京の雅に触れる石川丈山ゆかりの「詩仙堂丈山寺」と世界遺産の「下鴨神社」を訪ねる行程で10月25日（土）21名の参加者で実施されました。

初めは下鴨神社に参詣しました。京都最古の神社の境内は荘厳な雰囲気包まれ心地よい緊張を感じながら紉の森をぬけ例年5月15日に行われる葵祭に思いをはせながら国宝の本殿へと歩をすすめました。

お宮参りに七五三、それに二組の結婚式の花嫁行列にもめぐり逢い、若い人たちの笑顔と歓声に私たちも幸せな気分をもらい、歴史ある境内をゆつくりと散策が出来とてもよかったです。

昼食は、老舗「山ばな平八茶

ました。

雨が強くなり、やむを得ず吟行を中止し、懇親会会場に場所を移し、「富士山」を合吟いたしました。雨の中の吟行ではありましたが、深い緑に囲まれて郷土の歴史に思いを馳せ、吟友との交流を深めた一日でした。（22名の参加）

（諫早支部 上川錦鈴）



屋」でいただきました。高野川を眺めながらの食事は、とても美味な京料理を堪能しました。お接待をしてくださる女将と

お店の方々の立ち居振る舞いは中々のもので400年の歴史と伝統を感じ大満足なお昼でした。

その後、詩仙堂丈山寺を訪ねました。現在は曹洞宗大本山である永平寺の末寺になっています。住職様から詩仙堂と石川丈山の関係など詳しく説明をいただきました。丈山はもともと徳川家康に仕えた譜代の家臣であつたが、大阪の陣参陣の後30歳半ばで文人となり藤原惺窩に朱子学を学び、漢詩・書・作庭などマルチに活躍した人物だったこと、50歳後半より90歳で夭寿を迎えるまで、31年間この草庵に隠棲して一步も外に出ず仙人のような境遇を生きた人であることも知りました。

山田の僧都（そうず）と呼ばれる「ししおどし」いわゆる猥除け（庭園の植物保護）を初めて庭に取り入れたのも丈山であつたとのこと、この日も庭で澄み切った風情のある音を響かせていました。

普段のお稽古や大会などの初めには必ず詠う石川丈山作「富士山」ですが、石川丈山のゆかりの地を訪れたことによって、何千・何万回も詠った「富士山」をより深く思うのでした。

ツツジの大刈込や山茶花を配した丈山好みの唐様庭園、師はここを毎日散歩したのだろう思

われる絶好の場所を住職さんから案内され、そこで全員が心を込めて高らかに「富士山」を合吟しました。そばに集まっていた観光客の方々からも大きな拍手を頂き、こんな楽しい吟詠は初めて！と思わず皆の顔に笑みが広がりました。また、紅葉の頃かサツキの咲く頃に訪ねたいな！と思いながら詩仙堂を後にしました。

本当に心に残る有意義な吟行会の一日でした、今後もこのような吟友のつながりが続くことを念じてやみません。

（米原支部 徳田錦榮）

本部の動き（7・6・21より7・10・15まで）

6月23～24日 令和7年度定時総会・指導者講習研修会

7月25日～27日 滋賀県本部湖北地区の師範指導

8月1～4日 鹿児島県本部の講習研修会と昇格審査

23～25日 北海道道南本部の講習研修会

29～31日 滋賀県本部の昇格審査と講習研修会

9月26～28日 愛知県本部の師範指導と昇格審査

日本伝統文化吟友会吟剣詩舞コンクール
近畿地区決勝大会に参加しました

向暑の候、6月29日に、日本
伝統文化吟友会吟剣詩舞コン
クール近畿地区決勝大会が、大
阪府富田林市で開催されまし
た。錦城会滋賀県からは、左記
の皆様方、13名が出場しました。

漢詩・一般二部
北田信行（城徳）
鈴木優子
小菅光生（城史）
竹田光子（錦光）
漢詩・一般四部
谷村政嗣（城嗣）
笠井弘子（錦弘）
蔵口嘉寿男（城源）
前川与晴（城与）
審査員には、明智城秀先生、
土田城紘先生が務められました。

漢詩・一般二部
笠井昌一郎
岡島伸夫
藤野智子（錦結）
漢詩・一般三部
草村靖子（錦草）
森知恵子（錦苑）

錦城会大阪府本部からは、

日本伝統文化吟友会吟剣詩舞コンクール
中国地区決勝大会に出場し入賞する

今年には特に暑い日が続いた7
月5日、日本伝統文化吟友会吟
剣詩舞コンクール中国地区決勝
大会が、倉敷市倉敷公民館にお
いて剣詩舞コンクールが開催さ
れました。審査員には、西川緑
恵先生が努められました。

吟詠の部は、7月27日倉敷市
玉里交流センターで開催しまし
た。審査員には、西川錦洸先生
が努められました。

錦城会詩舞の部には、8名が
出場しました。

審査の結果は、

詩舞一般三部

入賞 神原光江
入賞 井上順子
入賞 中村妙子

漢詩少年の部 北中彩月
漢詩一般二部

新田洋子（錦純）
大村 誠（城川）

漢詩・一般二部
山本弥生（錦生弥）
漢詩・一般三部
吉田時子（錦粹）
亀井悟郎（城翔）
東尾博和（城博）
中野昇三（城昇）
漢詩・一般四部
久保栖幸（城幸）
楠元雄三郎（城雄）
の、7名が出場いたしました。

審査員には、塩川錦晃先生、中
島城哲先生が努められました。

投稿・滋賀県本部 土田城紘
大阪府本部 塩川錦晃

漢詩一般三部

佐藤典伸（城英）

漢詩一般四部

木村武則（城洋）
平川智久（城久）

が、入賞しました。

投稿・広島県本部 西川錦洸

◆新師範の紹介◆

雅号	県名	取得年月
市丸錦月	（佐賀県）	7・7
高橋錦収	（長崎県）	7・7
川野城隆	（長崎県）	7・7
伊達城聲	（長崎県）	7・7
加藤錦淑	（長崎県）	7・7
西山錦圭	（長崎県）	7・7

日伝吟・吟剣詩舞コンクール

関東決勝大会で優勝する

酷暑の8月23日、日本伝統文
化吟友会吟剣詩舞コンクール関
東地区決勝大会が、東京都八王
子市の芸術文化会館（いちよう
小ホール）で開催されました。

短歌・一般の部
小宮喜八郎（神奈川）
古賀 豊（神奈川）
寒河江護（神奈川）
有原裕絵（埼玉）
林 清隆（埼玉）

関東決勝大会出場権を獲得され
ての出場であり、緊迫した状況
に包まれた大会となりました。

審査の結果は、
漢詩一般三部 入賞 古賀 豊様
漢詩一般四部 優秀賞 松原慎一様
入賞 寒河江護様

漢詩一般三部

水野智仁（神奈川）

漢詩一般四部

松原慎一（神奈川）
古賀 豊（神奈川）
相沢ヒロ子（埼玉）
齊藤幸子（埼玉）
中野三保子（東京）
寒河江護（神奈川）

漢詩・一般四部

美代錦恵（鹿児島）
森 城陽（鹿児島）
迫立城周（鹿児島）
中川錦祥（滋賀県）
中村城心（滋賀県）
小泉城泉（滋賀県）
霧谷城亀（滋賀県）
寺内錦日（滋賀県）
山中城珀（滋賀県）

7・9
7・9
7・9
7・10
7・10
7・10
7・10
7・10
7・10

お詫び

紙面の都合によりまして「新
入会員の紹介」と「組織体長の
変更」が載せられませんでした。
次号に掲載させて頂きます。お
詫び申し上げます。（S）



詩吟朗詠錦城流

一般社団法人 詩吟朗詠錦城会



全 國 大 会

特別番組

・茶絃録

企画朗詠として戦後80年を経て・・・

・企画構成吟「大物の浦」

・琵琶舞物語「平家兵船絵巻」

・琵琶舞物語「義経の最期」

日 時／令和7年 **12月7日(日)**

12時00分開場：12時30分開演

入場料金／1,000円

会 場／  大野城まどかぴあ
(大ホール)

福岡県大野城市曙町2-3-1

TEL 092-586-4000



無料駐車場完備 平面191台、立体284台

※ 駐車可能台数に限りがあります。できる限り、公共交通機関をご利用ください。